

ハ開キ見ル事ヲ禁ス何トナレハ其効能ヲ失ヘハナリ
二 綱帶包ハ外ヨリ之ヲ分解スル時ハ左ノ如シ

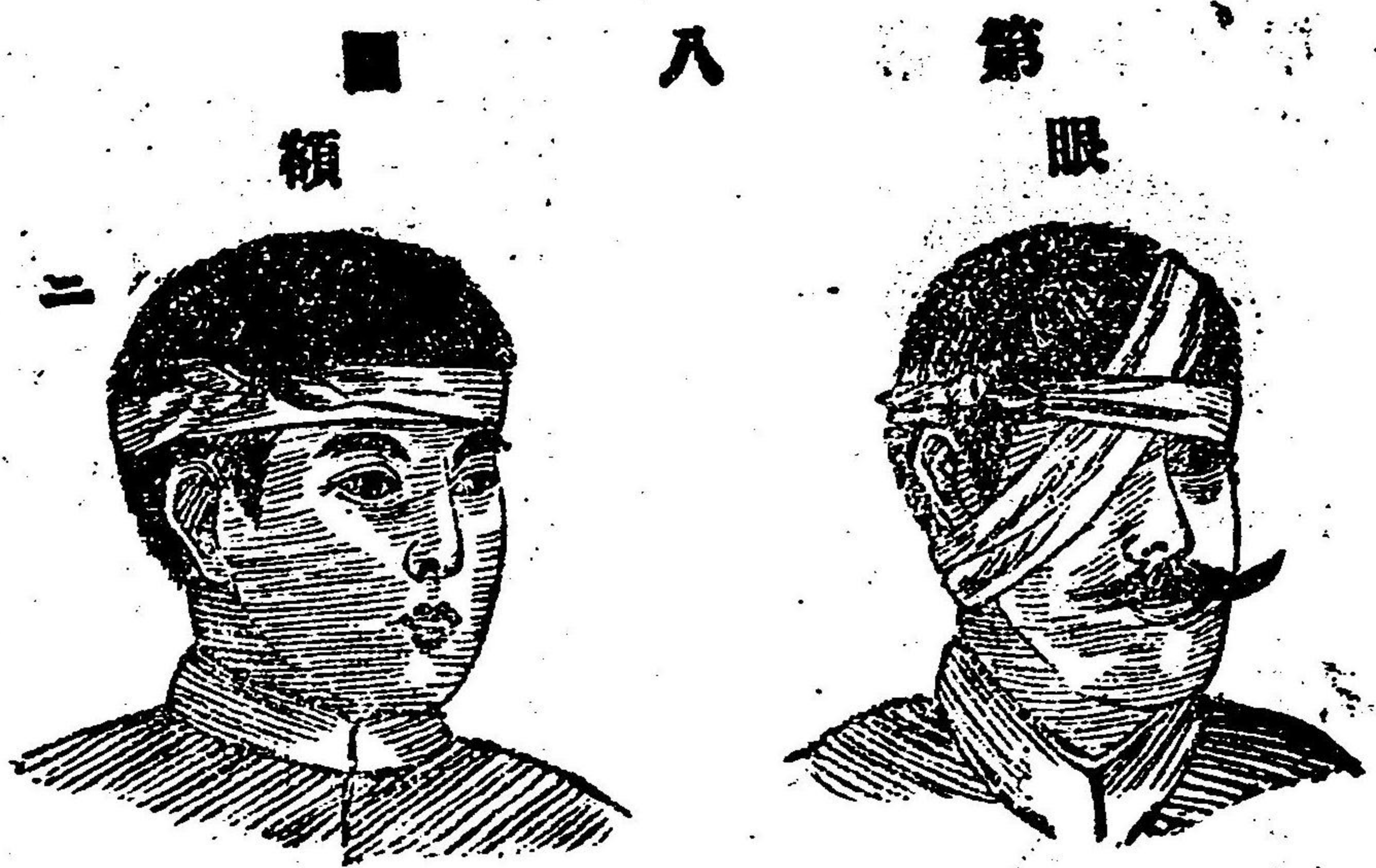
(一) 外包ハ三角巾、(二) 溢引紙、(三) 消毒綿紗三枚ナリ此消毒綿紗三枚ハ銃丸ニ射貫カレタル時一枚ヲ射入口ニ一枚ヲ射出口ニ當ツ他ノ一枚ハ萬一過チテ地上ニ落シ又ハ之ヲ汚シタル時ノ豫備ナリ而シテ之ヲ用ユルニハ外面ヲ指ニテ摘ミ内面ヲ傷ニ當ルヘシ(創面ニ當ル面ハ指ニ觸ルヘカラス)

三 創傷處置ノ際ハ先ツ被服ヲ解キテ創ヲ見若シ副木ヲ要セハ之ヲ準備シ然ル後綱帶包ヲ解キ順序ニ整頓シテ所要ノ形ニシ綿紗ヲ創面ニ當テ溢引紙ニテ被セ三角巾ニテ綱帶止針ニテ止メ或ハ末端ヲ結フヘシ

四 三角巾ハ或ハ開キタルマ、之ヲ用キ或ハ尖取ヨリ順次半折シテ幅二寸計リソ片トナシテ之ヲ用ユ而シテ後者ヲ頸幅狀帶ト名ク

五 綱帶ノ方法左ノ如シ
(一) 眼耳額頰手足ノ小サキ創ヲ卷キ或ハ骨傷ニハ竹木等ヲ副テ頸幅狀帶ヲ以テス

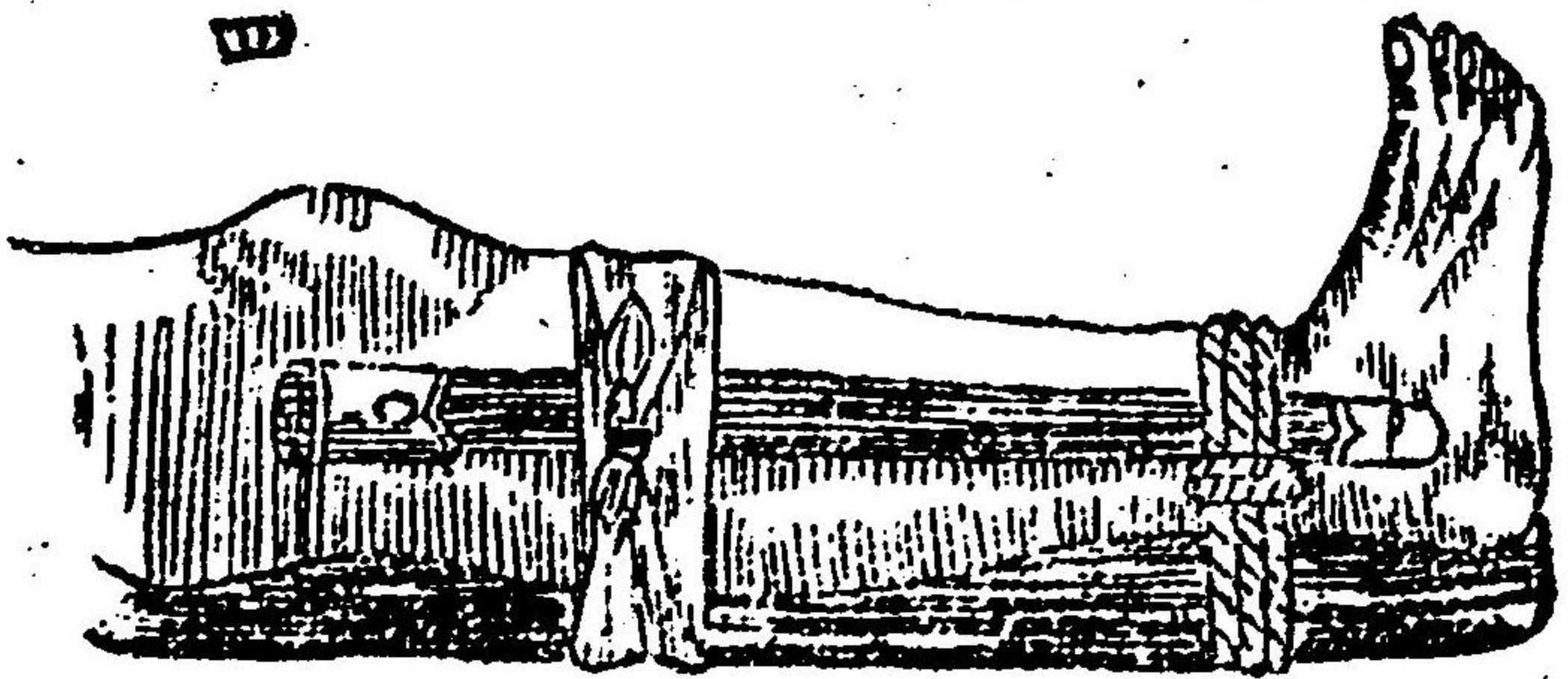
ヘシ(第八圖一、二、三、四)



頰及眼



骨傷





圖九第

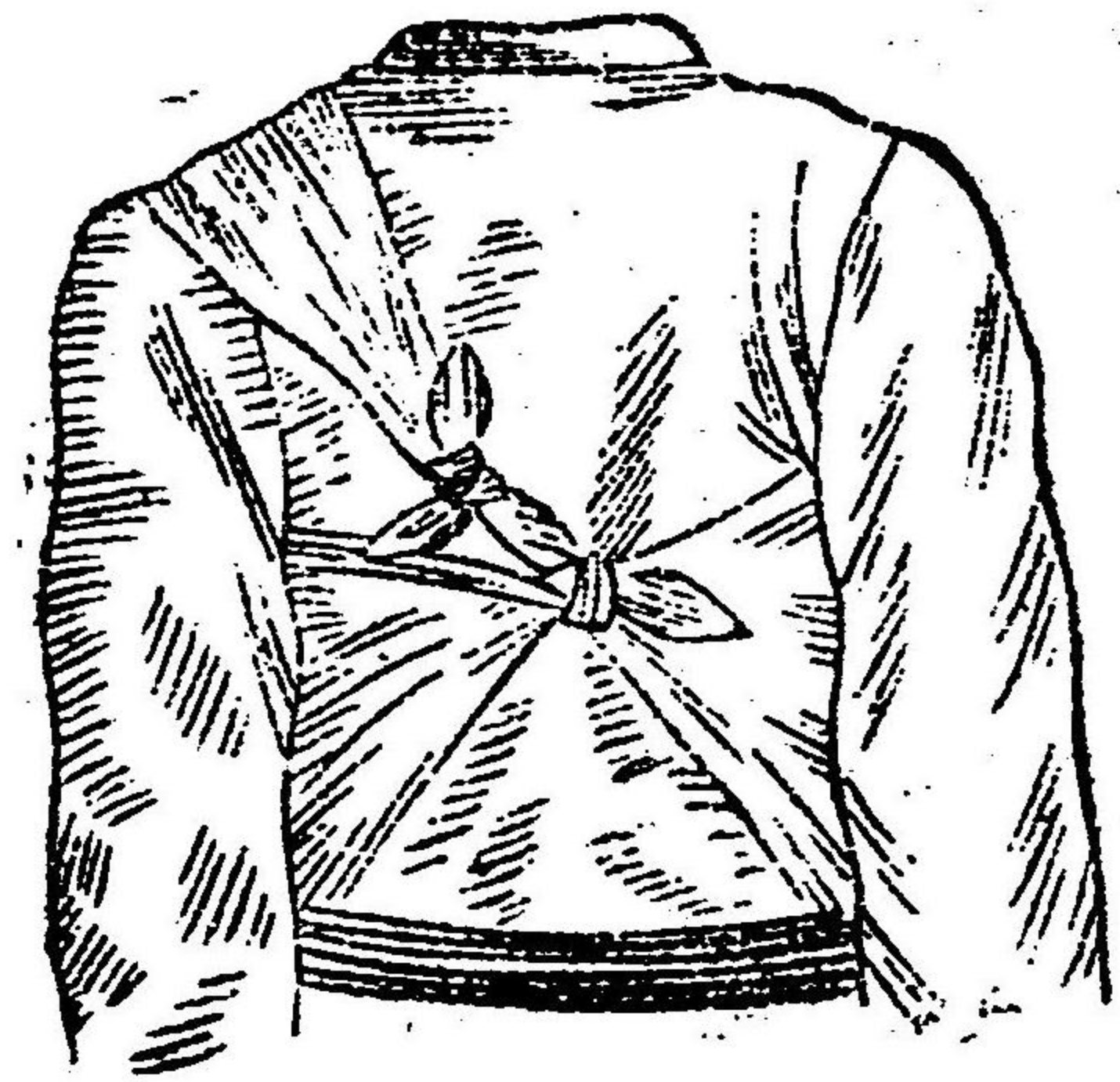
(二) 頭ノ創ヲ卷クニハ、開キタル儘其中央ヲ頭頂ニ置キ下縁ヲ額ニ當テ兩端ヲ頭後ニ廻シ交叉シテ額ニ戻シ結ヒテ止メ後ニ垂レタル三角部ヲ折反シテ頭頂ニ至リ止針ニテ縫止ムヘシ(第九圖)

(三) 胸創ニハ、巾ノ中央ヲ胸部ニ當テ尖頂ハ患側ノ肩ヲ越サセテ後口ニ引キ下縁ニ

甲ノ圖十第



乙ノ圖十第



テ胸圍ヲ纏ヒ兩尖尾左右ノ腋下ヨリ背ニ廻ハシテ結ヒ更ニ肩ノ後口ニ垂レタル尖頂ト尖尾ノ末ヲ結フヘシ(第十圖甲乙)

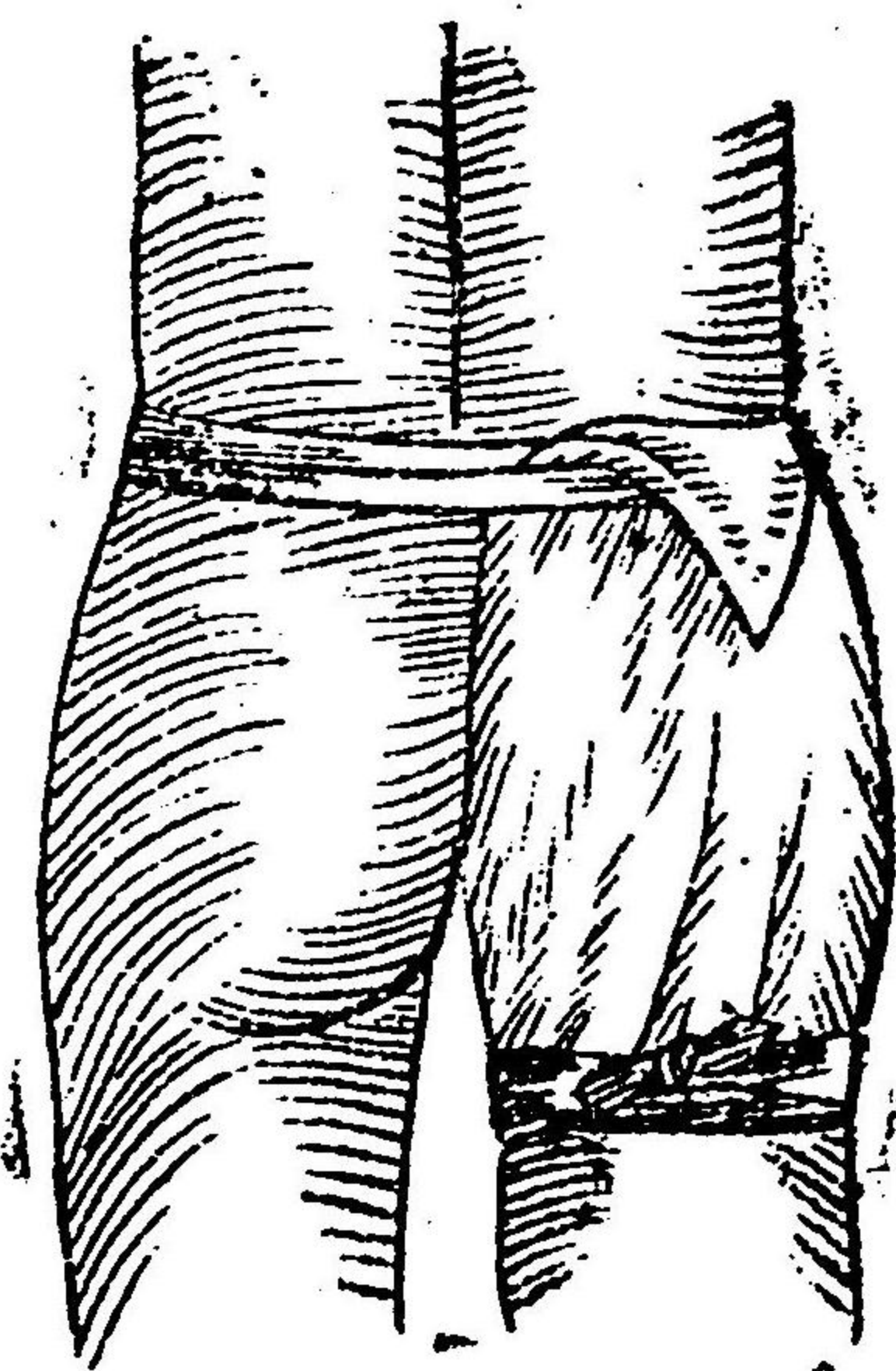
(四) 背創ノ卷キ方ハ、胸創ニ同シ唯後口ヨリ掩ヒ前ニテ結フヲ異ナリトス(第十一圖)

(五) 臀部ノ創ヲ卷クニハ、尖端ヲ上方ニ向ケ下縁ニテ大腿ヲ纏ヒ後上方ニ向ケタル尖端ヲ帶革等ノ下ニ通シ折反シテ止針ニテ止ムヘシ(第十二圖)

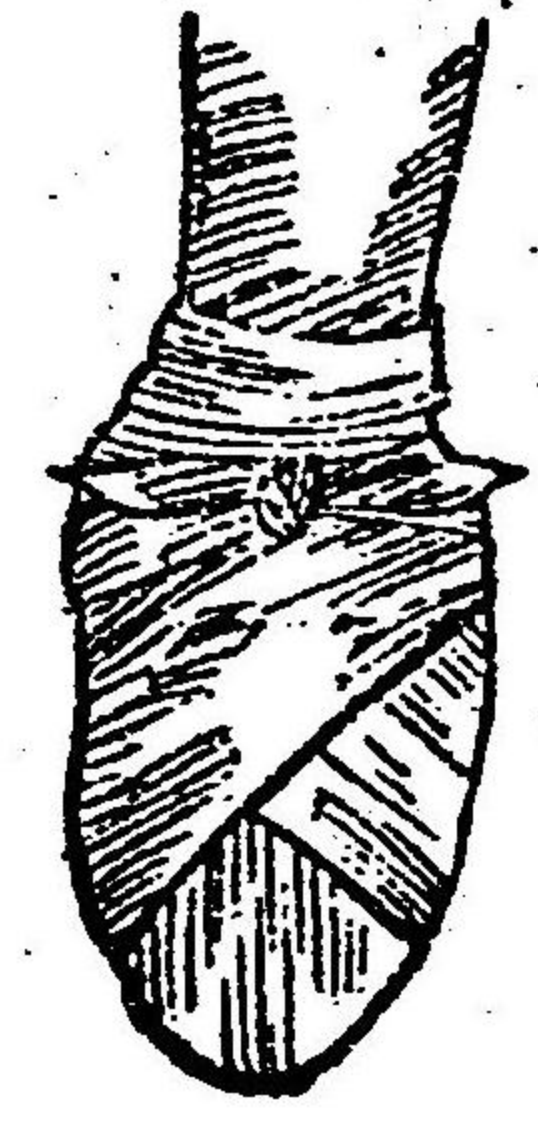
圖一十第



圖二十第



(六) 手ノ創ヲ卷クニハ、三角巾ヲ二ツニ疊ムカ又ハ折反シ或ハ切りテ小サキ三角形トナシ長縁ヲ手首ノ方ニ向ケテ手ノ下ニ敷キ尖頂ヲ折反シテ手ヲ被ヒ次テ兩端ヲ交叉シテ手首ヲ纏ヒ結フヘシ(第十三圖)



第四 急病

一 卒倒

衣袴ノ釦ヲ外シテ開キ胸腹ヲ緩メ頭及上半身ヲ稍高クシテ安臥セシメ(但シ顔面蒼白ナルナ低クシ下半)冷水ヲ手拭ニ浸シテ輕ク心臓部ヲ叩キ又冷水ヲ顔ニ灌キ(室内ハ空氣ノ流通ヲ善ス)醒覺スルニ及テ冷水ヲ飲マシムヘシ若シ醒覺セサレハ人工呼吸法ヲ行フヘシ

二 火傷

火傷ハ空氣ニ觸ル、ヲ忌ム、皮膚赤色トナリテ灼痛ヲ覺ユル者ハ冷水ヲ注キテ輕ク纏帶スヘシ、水泡ヲ生シタル者ハ其側縁ヲ針ニテ刺シ水ヲ漏ラスヘシ泡皮ヲ剝クヘカラ

ス皮膚爛レタル者ハ綿紗ヲ貼テ纏帶スヘシ、衣ノ燃ユルトキハ水ヲ注キ又ハ徐カニ地上ニ伏シ轉ヒテ之ヲ滅シ然ル後脱キ去ラシメ衣服ノ一部皮上ニ附着スルトキハ強テ之ヲ剝キ取ルヘカラス剪刀等ニテ周圍ヲ切取り纏帶スヘシ手足ノ指ヲ火傷セシトキハ、一々綿紗ニテ被ヒ又ハ油ヲ塗り指毎ニ纏帶スヘシ、若シ一ト併ヒニ纏帶セハ隣指相膠スル虞アリ

三 日射病

日射病ハ發汗甚シク皮膚熱シ顔面赤ク或ハ蒼ク呼吸迫リ終ニ人事不省トナリテ倒ルモノナリ、之ヲ救フニハ涼シキ木陰又ハ屋内ニ移シ衣服ヲ解キ上半身ヲ高ク安臥セシメ冷水ニ手巾ニ浸シ頭胸ヲ被フヘシ、尙醒覺セサルトキハ冷水ヲ全身ニ灌キ或ハ冷水ニ浴セシメ又呼吸止ミタル者ニハ人工呼吸法ヲ行フヘシ

四 凍傷

雪、氷若クハ冷水ヲ用キテ久シク摩擦スヘシ決シテ急ニ温ムヘカラス、水泡ヲ生シ又ハ暗黒色ヲ呈スルトキハ其處置火傷ニ同シ

五 凍死假死

皮膚蒼白、四肢、耳、鼻等強ク剛タバリテ倒ル、之ヲ救フニハ冷水若クハ風ナキ木陰ニ移シテ衣服ヲ除キ雪又ハ冷水ヲ用キテ全身ヲ輕ク柔カニ摩擦シ或ハ冷水ニ浴セシメ諸部ヲ摩擦シ四肢柔軟ナルニ至テ人工呼吸法ヲ行ヒ尙絶ヘズ摩擦シ呼吸復スレハ磨ラ被ヒ次第ニ厚キヲ加ヘ又室ヲ暖ムヘシ、決シテ急ニ暖ムヘカラス

六 溺水

溺者ノ衣服ヲ除キ手拭ヲ示指ニ纏ヒテ口内ノ泥土ヲ拭ヒ去リ救者ハ平坐シテ溺者ノ腹ヲ我膝上ニ當テ俯臥セシメ胸部ヲ低クシ手掌ヲ用ヒテ溺者ノ額ヲ支ヘ稍頭首ヲ反ラセ水ヲ吐カセタル後人工呼吸法ヲ行フヘシ

七 窒息

廢井、深穴等ニ入りテ窒息スル者ハ、新鮮ナル空氣中ニ移シ人工呼吸法ヲ行フヘシ、救護者ハ快速ニ救ヒ出シ自身モ窒息セサル様注意スヘシ

八 中毒

毒物ヲ飲食シテ未タ久シカラサルトキハ吐カシムルヲ可トス、吐ヲ催スニハ指頭、羽毛等ニテ咽喉ヲ搔キ又大量ノ微温湯鹽湯若クハ生卵、牛乳、鹽湯ヲ飲マシメ、若シ吐カサルトキハ多ク温茶若クハ微温湯ヲ飲シメ毒素ヲ稀薄ニスヘシ

第五 人工呼吸法

其法、患者ヲ平臥セシメ口ヲ開キ舌ヲ引キ出シ救者ハ頭邊ニ跪キ兩手ニテ患者ノ肘ヲ



甲圖四十第

捉ヘテ頭上ニ擧シメ空氣ヲ肺中ニ吸入セシムルコト約二秒時トス(第十四圖甲)
次テ急ニ患者ノ臂ヲ下ケテ胸側ニ壓シ付ケ肺中ノ空氣ヲ呼出セシムルコト亦二秒時トス(第十四圖乙)



ニ圖四十續

但シ呼出ノ際ハ、助手ヲシテ兩手ノ掌ニテ胸前及心窩ヲ壓セシムヘシ、此ノ如ク反覆スルコト數百回患者自ラ呼吸スルニ至テ止ムヘシ
仰臥ノ際、顔色暗紅ナル者ハ其頭ヲ高クシ、蒼白ナル者ハ之ヲ低クスルコトヲ勉ムヘシ

第十二章 赤十字條約

一昔時ノ戰爭ハ敵ヲ殲シ財産ヲ掠メ罪ナキモノヲ殺シ殘虐到ラサルナカリシカ人智開クルニ及ンテ戰爭ノ主義モ改マリ今ヤ戰地ニ於テ我ニ抵抗ノ力ヲ減シ兵器ヲ棄テ抗敵ノ情態ヲ止ムルホハ之ヲ敵視スルヲナキニ到レリ
二赤十字條約ハ同盟國十二ヶ國ノ間不幸ニシテ戰爭ヲ開キ軍人負傷シ或ハ病ニ罹リ假令敵地ニアルモ却テ之ヲ尊敬救護ス可キ者トス
三我天皇陛下ハ明治十九年六月五日ヲ以テ此條約ニ同盟アラセラレ軍人軍屬ヲシテ幸福ヲ享有セシメントノ聖慮ナルヲ以テ能ク之ヲ奉體シ文明戰爭ノ主義ヲ辨ヘ抗戰ノ力ナキ敵又ハ負傷者及一定ノ標識アル總テノ者ニ對シテハ敵視セサルノミナラス尊敬ノ意ヲ表シ決シテ仁慈ナル聖慮ニ乖キ國威ヲ汚ス等ノ所爲アル可ラス
四戰地假病院繙帶所及陸軍病院ハ局外中立(彼我ニ關係ナキ)ト見做シ患者若クハ負傷者ノ該病院ニ在院中ハ交戰者之ヲ保護シテ犯スヲナカルヘシ
五負傷者ヲ救助スル士民ハ侵スヲ得ス且ツ之ヲシテ其自由ヲ得セシメサル可ラス

六負傷シ或ハ疾病ニ罹リタル軍人ハ何國ノ屬籍タルヲ論セス軍人タルノ禮儀ヲ守リ之ヲ看護ス可シ

七局外中立タル病院什器及人員ハ白地ニ赤十字形ヲ畫シタル特定一様ノ旗及ヒ臂章ヲ用ユ而シテ之等ニ對シテハ害ヲ加ヘ又猥リニ使用スヘカラス

第十二章 輸送

其一 鐵道輸送

一兵卒ハ乘車ニ當リ所命ノ位置ニ整列シ號令或ハ號音ヲ以テ靜肅ニ順序正シク迅速ニ乘車スヘシ

二兵卒ハ各車ノ番號ヲ記憶ス可シ

三運行中兵卒ハ其位置ヲ離ル可ラス又貨車ノ入口或ハ車側板ニ踞スルヲ禁ス

四馬匹葛藤及彈藥ヲ載セタル車ニ於テ火ヲ點シ又ハ喫烟スルヲ禁ス

五窓ヨリ首ヲ出シ忘リニ大聲ヲ發シ又喧噪ナルヘカラス

六兵卒ハ普通列車ヲ用ヒタルハ一般人民ノ下車スル停車場ニ於テ下車スルヲ得軍

用列車ニ於テハ兵卒一般ニ下車シ得ルハ少クモ十分間停止スル停車場ニ限ルモノトス

七到着點ニ達シタルハ最モ靜肅ヲ保テ號令若クハ號音ニ依テ靜肅ニ順序ニ下車シ各自混雜セサル様注意シ神速ニ所屬部隊長ノ所ニ集合ス可キ者トス

其二 船舶輸送

一船舶埠頭又ハ棧橋ニ接スルハ下士兵卒ハ順序ニ靜肅ニ搭船ス可シ若シ端艇ヲ以テ輸送スルハ兵卒ハ將校若シクハ下士ノ誘道ニ依リ銃ヲ提ケ之ニ乗込ミ遠キ所ヨリ位置シ漕航中ハ最モ沈靜ナルヲ要ス而シテ海上危難ノ虞アルトキハ豫メ背囊ヲ卸スヲ可トス

二下士兵卒乘船セハ各自ノ座席ニ着キ銃ハ劍ト共ニ之ヲ座側ニ置キ背囊ハ之ヲ結束シテ枕ニスル如ク置クヘシ但シ外套ハ常ニ結束シアルヲ要セス使用セサルハ之ヲ疊ミ背囊ノ上ニ置クヘシ

三搭船中船舶内ノ諸規則ヲ遵守シ喫食飲水喫烟等ハ規定ノ場所ト時間トニ於テシ又船

内ヲ汚穢ナラシメサル
 四 清水ノ使用ヲ節約スル
 五 私ニ燈火ヲ點シ又ハ所定ノ燈火ヲ他ニ持チ行クヘカラサルコト
 六 失火坐礁衝突等ノ場合ニ於テハ兵卒ハ極メテ靜肅ニ指定ノ位置ニ在リテ船員ノ動作ヲ妨害セサルヲ緊要トス 特ニ輸送指揮官ヨリ指示シタル者ノミ船員ヲ補助スル者トス
 七 揚陸ノ命アル片ハ最モ靜肅ニ武裝ヲ整ヘ所命ニ從ヒ順序正シク揚陸シ阜頭棧橋ヲ去リ以テ爾後ノ上陸動作ヲ澁滯セシメサルヲ極メテ緊要ナリトス

兵卒教科書終

明治三十六年十一月二十日印刷
 明治三十六年十一月廿五日發行

兵卒教科書奥付

定價 貳拾錢

編纂人兼

山 口 道 正

東京市赤坂區一ツ木町二十九番地

印刷者

齋 藤 豁

東京市赤坂區青山北町一丁目一番地

印刷所

齋 藤 活 版 所

東京市赤坂區青山北町一丁目一番地

(電話新橋千六百七番)

複製
 不許

東京市赤坂區一ツ木町二十九番地

發行所

山 口 書 店

陸軍歩兵中尉小山修氏編纂

◎歩兵下士戰術書

全一冊

正價金貳拾錢
郵税金四錢

本書は下級幹部の研究に資すべき目的を以て戰術上の諸原則を言文一致體にて説明したるものにして一讀して其意義を了解するを得苟も一部の隊を指揮して戰闘動作を行ふものは此の書を玩味して臨機應變の處置を行はゞ必ず任務の好果を收め得らるべし

◎歩兵斥候勤務問答

全一冊

正價金拾錢
郵税金貳錢

斥候勤務の教習は最も困難の業にして練習には野外に於て實地に就き諸種の敵情を設け各種の任務に依り地形を利用して機に臨み變に應じ實際的に教授し其の机上の講話のみにて之等の動作を會得して實地に活動する能はざる固よりなり然れ共多くの課業と其他諸種の事情に妨げられ野外の演習のみにて熟練するは又望むべきに非ず故に野外に教習せし事は營内に學科に依りて復習し學科に學びし事は野外に於て實地に應用し兩々相待て精塾せざるべからず本書は此目的を以て各場合に處置すべき要領と斥候の知悉せざるべからざる事柄を講話し且つ問答の方法を掲げて會得し易からしめたり蓋し其教育者及習業者を裨補すべきを信す

●軍人修養錄

全一冊

正價金拾錢
郵税金貳錢

●內容概目

忠節○報國○軍旗○職分○使命○死境○禮儀○軍紀○服從○謙讓○武勇○剛毅勇
敢○沈着○高名の數勇士○信義○戰友○質素○愛馬○協同一致○容儀と威信○軍
人と人民

右の項目を説述し加ふるに一々實例を掲げ其龜鑑を示して了解に易からしめたり然し
て讀過一番心氣靜沈して或は忠君愛國の念を深ふし或は廉潔志を高尙にし或は勇武躍
然士氣奮興爲に身動き毛髮立て敵愾の心を惹起し能く艱苦を凌ぎ缺乏に堪へ自ら己の
任務を奮勵して先人に酬ひんとするの情を起すべし所謂精神教育に裨益する蓋し尠な
かるべきを信す

●兵士の百態

全一冊

正價金拾參錢
郵税金貳錢

「自序に曰く忠とか勇とか云ふ飾を押し樹て、正々堂々と正面から精神教育の任にあ
たる者は別に其人がある是は奇兵をはなちて後ろの山から攻めて見よふと云ふつもり
である」と著者名を小説に假り兵士の修養を期して此論を成す特に口を後備兵に托し
縦横快辯の議論を吐き或は酒樓に甲乙の談話を出し其新古參の懸隔の如き將校下士の
夢想にも及ざる處然も結構巧妙にして流暢なる文章は能く現實を寫し趣味津津として
湧くが如く讀者をして案を撃て嘆賞せしむ乞ふ一讀の勞を惜む勿れ

陸軍歩兵少佐 竹島音次郎氏閱

陸軍歩兵大尉 佐藤安之助氏著

●小部隊之指揮

全壹冊 紙數百八十餘頁
正價金貳拾錢郵稅各四錢

本書は簡易なる諸種の狀況を設けて小隊以下の兵力を以てする獨立勤務を野外演習的
に説明したるものにして諸種の問題の外に各種戰況に於ける指揮官の動作に關する單
簡なる原則を附し加ふるに例題を以てし且つ地圖を挿入せるが故原則を學ぶと同時に
應用を究め兼て地圖の讀法に熟し得るの便あり殊に文章平易に解釋精細なるを以て一
度之を熟讀するときは小部隊の如何に指揮せられべきやを容易に會得することを得べ
く實に下級指揮官の爲め坊間稀有の良教科書と謂ふべし去れば下士諸君は勿論士官候
補生一年志願兵及上等兵諸士等苟も小部隊の指揮法を知らんと欲するものは乞ふ精讀
研究あらんことを

●兵卒學科問答

全一冊

正價金拾錢
郵税金貳錢

本書は兵卒の教育課程を平易なる文章を以て問答體に編述せしものにして繁に流れず
簡に失せず専ら實用を旨とし殊にふり假名を付したれば何人も讀易くして解し易し實
に教育者及習業者を裨益する蓋し尠少なからざるを信す

◎距離測量簿

全一冊

正價金貳錢五厘
郵税金貳錢

本簿は距離目測に關する一般の注意を摘記して測手の便に供し其の各欄は横に記載する如く區劃して記入し易からしめ且つ一目して全表を閲讀し頗る便益の小冊なり

陸地測量部出版地圖并ニ兵用圖書普通教育書類及諸雜誌等御注文ニ應シ迅速ニ御取次可致候 但シ郵券代用ニテ代價御送附ノ節ハ一割増ノコト

5
5

兵卒教科書

全

051632-000-9

特15-116

兵卒教科書

山口書店

M36

BFB-0420

